

自然

守り伝えたい環境

悲恋の物語があったと伝えられる「恋の浦海岸」や自然のままの姿を残し、白砂の砂浜が美しい「勝浦海岸」「白石浜」など、福津市には干潟沿岸を含み約22kmもの海岸線があります。その海岸には時折ウミガメが上陸するという楽しみもあり、平成14年にウミガメの保護推進活動を通して環境保全の取り組みを行う「うみがめ課」が誕生した際には全国でも大きな話題となりました。

恵まれた環境の中で暮らす福津市の人々は、誰もが「自然とともに生きる」ことの大切さを知っています。海岸で産卵する母ウミガメと産まれてくる子ウミガメの命を温かく見守りながら、「いつでもウミガメが戻って来てくれるように」と海岸の清掃活動を積極的に行ったり、



絶滅危惧種のクロツラヘラサギ

玄海国定公園に指定される海岸をはじめ、福津市は数限りない自然に包まれたまち。ここには、自然とともに暮らす人間本来の姿が息づいています。



干潟は希少生物の宝庫。古生代からほとんど姿が変わらず「生きた化石」と呼ばれるカブトガニを見ることがも



鳥たちがくつろぐ穏やかな干潟の風景

自然を生かした教育を取り入れたいと、豊かな環境を次世代に伝えるための取り組みが盛んです。

自然と共存するために

貴重な命が育まれているのは海岸線だけではありません。津屋崎漁港から1.5kmほど入り込んだ「津屋崎干潟」は、貴重な生き物が息する「希少生物の楽園」として知られています。カブトガニや珍しい貝類、カニ類などの絶滅危惧種が存在するだけでなく、世界に2,000羽程度しかいないといわれるクロツラヘラサギの越冬地にもなっており、遠方から生物の観察に訪れる人々も。また、市内を流れ、飲料水や農業用水として生活に欠かせない水源となっている「西郷川」にも、貴重なイシマキガイなどが生息して

おり、福津市の自然環境がどれほど豊かなかを物語っています。

西郷川は市の南部を東西に走り、源流から河口まですべて福津市内を流れる川。上流には里山、中流には田園風景が広がり、下流には市街地が；といった具合に、いつも市民のすぐそばにあります。そのため、以前から「憩いの場として活用しよう」という活動が盛んです。

今の大人たちがまだ子どもだったころ、西郷川は絶好の遊び場でした。清らかな川では、子どもたちが泳ぎ、小さな魚を捕まえることもできたのです。しかしその後、川は生活排水などによる水質の汚染、雑草で覆われた河岸が長くそのままにされていました。

現在、川は「西郷川リバー基本計画」により、年々美しさを取り戻しています。これも、多くの人々が立ち上がり、ボランティアとして定期的に清掃を行うなどしてきた結果。子どもたちの水遊びの場、自然観察の場として活用されたり、市民が散歩を楽しめる遊歩道ができるなど大切な憩いの場として親しまれています。今後も郷づくりのメンバーをはじめとした市民一人ひとりの活動の高まりが期待されます。



海水浴、美しい夕日を眺めに...など、福津市の海岸にはたくさんの楽しみがある



西郷川花園には約100万本の菜の花が咲く

Column ● 福津三十六景

昔からまちを彩ってきた四季折々の自慢の風景。福津市では、海岸、緑豊かな山々といった自然の景観から伝統的な祭りまで、次世代に伝えたい36の風景を「福津三十六景」と定めています。

これまでに、この風景を広く伝えるため、フォトアートコンテストを実施して、市内外から作品を募

集。また、クイズを楽しみながら、自転車で福津三十六景のスポットをめぐるというイベントも開催してきました。

現在、福津三十六景をモチーフにした絵はがきを作成し、販売するなど、さまざまな手法で伝えたい魅力あふれる福津の風景を発信しています。



